



# ストレージ システム間でデータを転送する ONTAP 9

NetApp  
February 12, 2026

# 目次

ストレージ システム間でデータを転送する .....	1
ndmcopyを使用してONTAPデータを転送する .....	1
ndmcopyコマンドのオプション .....	3

# ストレージ システム間でデータを転送する

## ndmcopyを使用してONTAPデータを転送する

``ndmcopy`` `nodeshell` コマンドは、NDMP v4をサポートするストレージ システム間でデータを転送します。完全転送と増分転送の両方を実行できます。ボリューム、`qtree`、ディレクトリ、または個々のファイルの完全または一部を転送できます。

### タスク概要

ONTAP 8.x以前のリリースでは、増分転送できるのは最大2回（フル バックアップ1回と増分バックアップ最大2回）に制限されます。

ONTAP 9.0以降のリリースでは、増分転送できるのは最大9回（フル バックアップ1回と増分バックアップ最大9回）に制限されます。

``ndmcopy`` は、ソース ストレージ システムおよびデスティネーション ストレージ システムのノードシェル コマンドラインで実行することも、データ転送のソースでもデスティネーションでもないストレージ システムで実行することもできます。また、``ndmcopy`` は、データ転送のソースとデスティネーションの両方である単一のストレージ システムで実行することもできます。

``ndmcopy`` コマンドでは、ソース ストレージ システムおよびデスティネーション ストレージ システムのIPv4またはIPv6アドレスを使用できます。パスの形式は ``/vservers_name/volume_name \[path\]`` です。

### 手順

1. ソース ストレージ システムとデスティネーション ストレージ システムで、NDMPサービスを有効にします。

ソースまたはデスティネーションでデータ転送を実行している場合...	次のコマンドを使用します...
SVMを対象としたNDMPモード	<pre>vservers services ndmp on</pre> <p> 管理SVMのNDMP認証の場合、ユーザ アカウントは <code>admin</code>、ユーザ ロールは <code>admin</code> または <code>`backup`</code> です。データSVMの場合、ユーザ アカウントは <code>`vsadmin</code>、ユーザ ロールは <code>`vsadmin`</code> または <code>`vsadmin-backup`</code> ロールです。</p>

ノードを対象としたNDMPモード

```
system services ndmp on
```

2. ノードシェルの `ndmpcopy` コマンドを使用して、ストレージ システム内またはストレージ システム間でデータを転送します。

```
::> system node run -node <node_name> < ndmpcopy [options]  
source_IP:source_path destination_IP:destination_path [-mcs {inet|inet6}] [-  
mcd {inet|inet6}] [-md {inet|inet6}]
```



ndmpcopyでは、DNS名はサポートされません。ソースまたはデスティネーションのIPアドレスを指定する必要があります。ソースまたはデスティネーションのIPアドレスでは、ループバック アドレス (127.0.0.1) はサポートされません。

- `ndmpcopy` コマンドは、制御接続のアドレス モードを次のように決定します。
  - 制御接続のアドレス モードは、提供されたIPアドレスに対応します。
  - `mcs` および `mcd` オプションを使用して、これらのルールを上書きできます。
- ソースまたはデスティネーションがONTAPシステムの場合は、NDMPモード (ノードスコープまたはSVMスコープ) に応じて、ターゲット ボリュームへのアクセスを許可するIPアドレスを使用します。
- `source\_path` および `destination\_path` は、ボリューム、qtree、ディレクトリ、またはファイルの粒度レベルまでの絶対パス名です。
- `mcs` ソース ストレージ システムへの制御接続に優先するアドレッシング モードを指定します。  
  
`inet` はIPv4アドレス モードを示し、`inet6` はIPv6アドレス モードを示します。
- `mcd` デスティネーション ストレージ システムへの制御接続に優先するアドレッシング モードを指定します。  
  
`inet` はIPv4アドレス モードを示し、`inet6` はIPv6アドレス モードを示します。
- `md` ソース ストレージ システムとデスティネーション ストレージ システム間のデータ転送に優先するアドレス指定モードを指定します。  
  
`inet` はIPv4アドレス モードを示し、`inet6` はIPv6アドレス モードを示します。

`md` オプションを

`ndmpcopy` コマンドで使用しない場合、データ接続のアドレス指定モードは次のように決定されます：

- 制御接続に指定されたアドレスのいずれかがIPv6アドレスの場合、データ接続のアドレス モードはIPv6になります。
- 制御接続に指定されたアドレスが両方ともIPv4アドレスの場合、`ndmpcopy` コマンドは最初にデータ接続に対してIPv6アドレス モードを試行します。

IPv6アドレス モードで失敗した場合は、IPv4アドレス モードを使用します。



IPv6アドレスを指定する場合は、角かっこで囲む必要があります。

このサンプル コマンドは、ソース パス(source\_path) からデスティネーション パス(destination\_path) にデータを移行します。

```
> ndmpcopy -sa admin:<ndmp_password> -da admin:<ndmp_password>
  -st md5 -dt md5 192.0.2.129:/<src_svm>/<src_vol>
  192.0.2.131:/<dst_svm>/<dst_vol>
```

+ このコマンド例では、制御接続とデータ接続でIPv6アドレス モードを使用するように明示的に設定します。

```
> ndmpcopy -sa admin:<ndmp_password> -da admin:<ndmp_password> -st md5
  -dt md5 -mcs inet6 -mcd inet6 -md
  inet6 [2001:0db8:1:1:209:6bff:feae:6d67]:/<src_svm>/<src_vol>
  [2001:0ec9:1:1:200:7cgg:gfd7:7e78]:/<dst_svm>/<dst_vol>
```

この手順で説明されているコマンドの詳細については、"[ONTAPコマンド リファレンス](#)"を参照してください。

## ndmpcopyコマンドのオプション

`ndmpcopy` nodeshell コマンドで使用できるオプションを理解して、link:transfer-data-ndmpcopy-task.html["データを転送する"]を正常に実行する必要があります。

次の表は、使用可能なオプションを示しています。

オプション	概要
-sa username:[password]	<p>ソース ストレージ システムに接続するための、ソース側の認証のユーザ名とパスワードを設定します。これは必須のオプションです。</p> <p>管理者権限を持たないユーザは、そのユーザに対応する、システムによって生成されたNDMP固有のパスワードを指定する必要があります。システムによって生成されたパスワードは、adminユーザとadmin以外のユーザの両方に必須です。</p>
-da username:[password]	<p>デスティネーション ストレージ システムに接続するための、デスティネーション側の認証のユーザ名とパスワードを設定します。これは必須のオプションです。</p>

オプション	概要
-st {md5	text}
このオプションは、ソース ストレージ システムに接続する際に使用するソース認証タイプを設定します。これは必須オプションであるため、ユーザーは`text`または`md5`オプションのいずれかを指定する必要があります。	-dt {md5
text}	デスティネーション ストレージ システムに接続するときに使用する、デスティネーション側の認証タイプを設定します。
-l	このオプションは、転送に使用するダンプ レベルを指定されたレベルの値に設定します。有効な値は0、`1`から`9`です。ここで、`0`は完全転送を示し、`1`から`9`は増分転送を指定します。デフォルトは`0`です。
-d	このオプションは、ndmcopyデバッグ ログ メッセージの生成を有効にします。ndmcopyデバッグ ログ ファイルは`/mroot/etc/log`ルート ボリュームに保存されます。ndmcopyデバッグ ログ ファイル名は`ndmcopy.yyyymmdd`形式になります。
-f	このオプションは強制モードを有効にします。このモードでは、7-Modeボリュームのルートにある`etc`ディレクトリ内のシステム ファイルを上書きできます。
-h	ヘルプ メッセージが出力されます。
-p	このオプションを選択すると、ソースとデスティネーションの認証用のパスワードの入力を求められます。このパスワードは`-sa`および`-da`オプションで指定されたパスワードよりも優先されます。  <div style="display: flex; align-items: center;">  <p>このオプションは、対話型コンソールでコマンドを実行する場合にのみ使用できます。</p> </div>
-exclude	このオプションは、データ転送用に指定されたパスから、指定されたファイルまたはディレクトリを除外します。値は`.pst`または`.txt`などのディレクトリ名またはファイル名のコンマ区切りのリストです。サポートされる除外パターンの最大数は32、サポートされる文字の最大数は255です。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。